

『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムによる人材育成 平成27年度 「外部評価委員会」(5月) 議事録

日時：平成27年5月9日(土) 11:10~12:45

会場：皇學館大学 9号館 911会議室

出席者

【外部評価委員】丸山 仁 先生(岩手大学副学長)
岩崎 恭典 先生(四日市大学副学長)
益川 浩一 先生(岐阜大学地域協学センター長)

【自己点検・評価委員】

【委員長】清水 潔(COC実施本部長/皇學館大学長)
【副委員長】齋藤 平(COC実施副本部長/皇學館大学教育開発センター長)

【委員】辻 浩利(伊勢市情報戦略局企画調整課長)
濱口 博也(鳥羽市企画財政課副参事)
筒井 琢磨(皇學館大学教育開発センター教員)
笠原 正嗣(皇學館大学教育開発センター教員)
板井 正斉(皇學館大学教育開発センター教員)
近藤 玲介(皇學館大学教育開発センター教員)
千田 良仁(皇學館大学教育開発センター教員)
池山 敦(皇學館大学教育開発センター教員)
木村 成吾(皇學館大学教育開発センター教員)
橋本 久(皇學館大学教育開発センター教員)

*下村 卓也(志摩市企画政策課長)、林 裕紀(玉城町総合戦略課参事)、中井 宏明(度会町政策調整室長)、田中 大輔(大紀町企画調整課長)、西村 聡史(南伊勢町行政経営課長)、中谷 英樹(明和町防災企画課長)の6氏は欠席〔委任状提出済〕

(議 題)

1. 外部評価委員ご挨拶

〔丸山委員〕

岩手大学で教育・学生担当理事、副学長を務め、教育推進機構長を兼任しております。研究推進機構、教育推進機構、地域連携推進機構の長をつなぎ、岩手大学COCについて全体を見渡す担当者があるであろうということで、三陸復興推進担当・副学長がCOC事業全体の責任者を務めることとなりましたので、今年度からは岩手大学COC事業全体の責任者ではなく、教育部分の担当となりました。

皇學館大学COC事業の立ち上げ準備時から見させていただいており、大変参考になります。

久慈市の地方創生アドバイザーの方も皇學館大学の特命教員に着任されたということで、うれしく、心強く思っております。今日はよろしく願いいたします。

〔益川委員〕

岐阜大学 COC 事業では、三本柱として教育部門では「次世代地域リーダー育成プログラム」、研究部門では「地域志向学プロジェクト」、地域貢献・社会貢献では「ぎふフューチャーセンター」の開催により地域課題の発掘等に務めており、事業を推進してまいりました。そして本年度3年目を迎え、中間評価を受ける年となっています。

COC 事業推進のための支援機関として岐阜大学では地域協学センターを事業採択と同時に設置しました。この地域協学センターは学則上、部局と位置づけられており、私が今年度から地域協学センター専任として移りまして4月よりセンター長に着任しました。皇學館大学の取組みからも学ばせていただくつもりで参りましたのでぜひともよろしく願いいたします。

〔岩崎委員〕

皇學館大学 COC 事業とは同じ県内であり、同期であります。

四日市大学では地域連携については社会連携センターが担当し、それに伴うガバナンス、カリキュラム改革を私が担当しています。カリキュラムの全面改革を29年度にということにしていますが、組織がなかなかついていけないというところがあります。

今日はいろいろ教えていただきたいと思い参りました。よろしく願いします。

2. COC実施本部長 ご挨拶

皇學館大学 清水 潔 学長より挨拶がなされた。

今年度最初の外部評価委員会にあたりまして、外部評価委員の先生方を始め皆様お集まりいただきましてありがとうございます。昨年度は実施体制の整備期間で、いよいよ今年度からプログラムが動き出すという段階です。

今日は平成27年度の計画について主に外部評価委員の先生方にご承知おきいただき、いろいろ貴重なご意見を賜りたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願い申し上げます。

3. 平成27年度(平成27年4月から平成28年3月)事業計画について

冒頭、今年度着任教員の紹介が行われた。

千田准教授・・・(専門) 農業経済学

地域おこし活動のサポート

岩手県久慈市地方創生アドバイザー

座学ではなく、地域と学生をつなげるコーディネーター役を果たしたい。

近藤准教授・・・(専門) 自然地理学

6次化、防災、自然環境を売りにした観光や自然環境を1次産品に付加価値をつける為の材料とする活動などで貢献できればと考えている。

池山 助教・・・起業、行政からの依頼によりワークショップを設計、実施。

昨年は「三重県の少子化対策を考える」ワークショップ(フューチャーセッション)を10回実施。

学生と教員、学生と地域の人たち、皆さんがうまく結びついて学びあえるような学習環境や話し合いのデザインを主に担当できればと考えている。

その後、齋藤教授より「平成27年度事業計画」配布資料① p. 4~7 をもとに各月ごとの事業内容について、また p. 8 をもとに予算書の説明がなされた。

また、木村企画部長より「伊勢志摩定住自立圏共生学運営会議」第2回(6/18) 議題に追加された事項について補足説明があった。

〔6/18 運営会議議題追加事項〕

- ・平成27年度『伊勢志摩定住自立圏共生学』現地学修の実施計画について
- ・平成27年度『伊勢志摩定住自立圏共生学』学修成果測定アンケート内容について

4. 伊勢志摩定住自立圏共生学の開講状況について

板井准教授より配布資料②~⑤をもとに説明がなされた。

- ・これまでに3回授業実施。概観的視点からの講義。
- ・工夫点 3点

① クリッカー：(配布資料 モニター画面写真)

- ・各授業導入段階でその日に学修する内容を3~5択の質問で提示。

② ミニツツペーパー：(配布資料⑤ 池山助教より説明)

- ・学生とのインタラクティブな関係の構築を目的としたもの。
- ・授業感想、学んだこと、教員または市町の方への質問事項等を短時間でまとめる。マークシート使用のため集計はほぼ即時で出席管理も可能
- ・manaba folio(朝日ネット)との連動を検討中。出来るだけ学修効果を高められる形でのポートフォリオ化を図る。

③ Facebook：

- ・担当教員で運用開始。担当教員がコメントの書き込みを行っている。
- ・授業の振り返りと告知のメリットを活用
- ・ページビューは1500~1800程度。
- ・(いいね 514) 社会人が多く、社会人で皇學館の取り組みに興味を持っていただいている方が多くいると考えている。

5. 平成27年度 CLL 活動計画について

齋藤教授より配布資料をもとに説明がなされた。

- ・2市町(玉城町、志摩市)から申し入れあり。

CLL活動として認定できるかを検討、認定したもの。

玉城町・・・地域おこしのためのイベントの企画段階から学生参加

志摩市・・・藻谷浩介氏招聘。CLL活動と目的が合致しているものと判断
教育プログラムとしても充実したものであると認識している。

- ・明和町散策マップ作成依頼があり、CLL活動として認定したいと考えている。

その他

その他、配布資料について齋藤教授より説明がなされた。

(1) アンケート集計結果（教職員分） : 配布資料⑥

「教員用アンケート 問5」について。「地元産業界との連携事業へ参加している」との回答が少なかった。

従来、本学は学問の性格上、産学連携をする機会があまりなかった。地元産業界との連携事業については今後、地元の商工会議所等の団体との連携を図りながら進めてゆきたい。

(2) 圏域内視察参加者アンケート : 配布資料⑧

非常に多くのことを学ばせていただいたという結果になっている。

(3) 平成26年度 外部評価書 : 配布資料⑦

3月外部評価委員会で集計中であった部分（評価項目8【社会貢献】）について説明

- ・ 地域福祉・教育領域での参加学生数が大きく増加
→ 連携事業を通じての活動（陸上教室、子育て支援等）で毎月開催のものが今年度取り組みを始めたため。
- ・ 県内就職者数 減
- ・ 県内インターンシップ数 増
- ・ 圏域内就職者数 増

6. 外部評価委員からの質疑と応答

* 授業工夫点について

(Q1) COC 事業での授業ということで、特にアクティブラーニングを意識して行っておられるのか？そもそも大学の教育の方向性としてそうなのか？

(A1) この COC 事業だからというのではなく、全学的に進めているもの。

アクティブラーニングや PBL 手法を用いた授業はかねてから求められているので、できるだけ積極的にそれらの手法を取り入れた授業展開にするよう、教育開発センターを中心に呼びかけているが、実態としてはなかなか広がりを見せていない状況。

(Q2) その場面（アクティブラーニングや PBL 手法による授業展開）での教員の関わり方は？また、特命教員はアクティブラーニング手法を教育に取り入れていくところも意識しての採用か？

(A2) 池山助教がファシリテーターとしての実績と知見を積んでおり、今後、池山助教を中心に手法を広めていけると考えている。

(Q3) 求める人材像としてアクティブシチズンを掲げておられるが、そのような人材を育てることとこれらの手法を取り入れることにつながりはあるか？

(A3-1) 意識的にそのような手法をとっている。

また、双方向の授業方法で得られた経験は今後、地域へ出た際、地域の方とコミュニ

ケーションをとる時にも非常に有効だと考えているので、特に意識的に取り入れている。

(A3-2) 特命教員と共生学Ⅰ、Ⅱとの関わり。

現在、特命教員3名と副センター長が授業に参画。共生学Ⅰ、Ⅱの授業構成と教員の専門分野との関係が見えにくくなっている面がある。しかし、今後、共生学Ⅰ、Ⅱを基礎として地域インターンシップやプロジェクト研究へと応用し、各教員の専門分野と学生の興味とを密接に関連させていくことを視野に入れている。共生学Ⅰ、Ⅱの授業構成の中にはそうした見通しが含まれているということをご理解いただきたい。

また、授業全体の組み立て方については既に課題として認識している点がある。授業15回分のオムニバス組立ての段階で各市町のご都合が最優先されたため、15回目の授業が大学教員によるまとめの授業とならず、市町の方に授業をしていただくという構成になっている。授業の組立てとしてはもう少し工夫が必要であるという認識をしておき、来年度以降は授業構成についてもデザインできればと考えている。

* 社会人履修について

(Q4) 社会人履修生については審査をおこなうということであるが、実績が上がらないと困るだろうし、また、自治体職員ばかりでなく、6次産業化にしても観光にしても当事者の方たちがどれだけ参加して下さって、現場に戻って何かして下さるかと言うのが大事だろうと感じる。形だけみると審査によってハードルを高くしているように見えるが、参加の見込みはあるのか？また、参加してもらえるような工夫なり戦略、掘り起こしのようなものがあるのか？

(A4) 社会人履修生の審査については、信州大学の例を参考に設計した。その例を見ても応募数が非常に多かったということを知ったため。これは活動の意識を持たない受講者にご遠慮願うという目的である。

また、フューチャーセッションの取組みを板井副センター長中心にもつ予定である。ここに参画くださった実務家の方にも呼びかけてゆきたいと考えているところである。

* 科目Ⅰ、Ⅱのテキスト作成は非常に良いことだ。

* 12月の検討課題「在学中の地域活動証明書の発行体制」については、学生への動機付けに非常に良いのではないかと。

(Q5) 現段階での活動時間証明書のイメージのようなものがあれば伺いたい。

(A5) 在学中の活動での活動時間を卒業時に証明するものをイメージ。

島根大学の1000時間社会活動プログラムを参考にしている。

(Q6) クリッカーや振り返りシートを使うなど授業の工夫が見られる。受講学生が多いが、全学生数の中でどれだけの割合を占めているのか？

(A6) 今回、この授業を履修登録できるのは1,2年生であり、1400名中の受講学生96名となる。当初のもくろみでは1学年の10%ぐらいが地域志向ということを考えていた。本科目は2年次配当のため2年生700名の10%にあたる70名が受講することを目標としていたところ、96名の受講となった。結果として、受講対象の分母からすると96/700(13%)と言う

ことになる。

(Q7) 科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと進むにつれて履修登録者数が減っている理由は？

(A7) 科目Ⅲ、Ⅳについては70名未達成。

1つは時間割の都合。2つの学部で同じ時間に必修科目があり、受講できない学生がいた。講師（三重銀総研 伊藤氏）の今年度のご出講上の問題。また社会人向けに比較的遅い時間に設定したため、学生にとってはあまり遅い時間まで授業を受けたくないという理由やクラブ活動時間と重複するなどの理由が考えられ、科目Ⅳについては特に11名という数字に留まっている。

秋学期分については追加の履修登録の機会があるので、その際にはできるだけ受講生を増やそう呼びかけたいと考えている。

(Q8) 講義の評価はどのような形を考慮しておられるか？

（どのような観点で？どういう評価方法で？ポートフォリオを使いながら？）

(A8) ミニツペーパー記入の評価の蓄積によって行っている。

特命教員3名が評価者となり、成績評価することとしている。

(Q9) 平成26年度外部評価報告書 p.16【社会貢献】三重県内就職者数及び就職者に占める割合について。学部による内訳は？学部によって偏りがあるか？

(A9) 具体的なデータが手元にないが、伝統的には神道学科、国史学科は県外へ就職していく学生が多い（入学生も同様に県外出身者が比較的多い）。あとの学科については基本的には県内から入学して県内で就職する率が高い。

(Q10) テキスト作成はいいなと思う反面、紙ベースに落とすことにどれだけの意味があるのかと感じる。いろいろ変化してきえる部分が多いだろうので、紙ベースでまとめられる部分とまとめられない部分があるのではないかと思う。

(A10) 社会の変化に対応し、教材を新鮮なものとして作成してゆけるかについては非常に重要な指摘であると思う。その点については執筆の段階で十分に検討したい。

***自治体も共にCOC事業を支えている、学生を育てているということを忘れてはいけないと感じる。目標共有が大切であると思う。**

(Q11) CLL活動内容の選定について

(A11) 社会貢献活動については地域連携推進室で窓口を一本化しており、イベント動員型のものについては、ボランティアルームへ紹介している。こちらでの活動については、活動時間証明書の交付対象には考えていない。

また、今回認定したCLL活動3つについては窓口教員を設定し、活動が学生の学びや成長に結びついているのかをチェックして、地域の方々と学生とのコーディネートを適切に行うということを考えている。

また、教育的な効果が期待できるか否かについては COC 担当教員によって一件ずつ検討を行っている。

(補足説明)

島根大学のプログラムを参考に成績証明とは別に在学中の地域貢献活動 500 時間の証明書を発行してみようと考えている。交付体制については島根大学のものを参考にしたいと考えている。

(Q12) 共生学 I 教育プログラムの内容を見せていただいたが、各自治体の新規採用職員に受講させるようなことがあってもよいのではないだろうか？

(A 12) 自治体職員の業務との兼ね合いもあり、これだけの授業時間数へ参加いただけるかどうかも含め、今後自治体と協議させていただきたいと思う。

(Q13) 大学と産業界の連携について

(A 13) 産学連携については、地元商工会議所等との連携を進めることで今回の COC 事業アンケート結果よりも高められるよう努めたい。

<板井准教授から外部評価委員への質問事項>

定量的な評価についての取組みおよび教科書作成についての知見があればお教え願いたい。

[外部評価委員]

状況が大学により違うということがある。

岩手大学の場合は、1年次に震災復興学修（当初は被災地学修）として全員に今、何が起きているのか現場を見てきてもらっている。そこで自分に何ができるのか、できないのかを実感してもらい、大学で勉強して地域のために役立つ人になりたいという気持ちになってもらう、そういう動機付けに重きを置いたプログラムを一番大事にしている。

気づきを得た学生が、その後、どの学部に行っても自分が大学で勉強している専門のことと自分が地域社会に出て行ったときに何ができるかを結び付けて考えられるようになってほしいと考えている。

震災復興学修は、全員に行ってもらうために従来からあった必修科目の基礎ゼミナールに付加したもので、全 15 コマのうち、3~4 コマを想定して、実際に被災地に行っている時間と事前指導、振り返りを含めた事後指導として授業を行っている。

そもそももっとも重きを置いているのが学びの動機付けというものであるため、定量評価にはなじまない。そこで見て何を感じてきたかということレポートとして出してもらって評価する形にしている。

専門課程に進んだときにどの学部に行っても専門と地域との結びつきがわかるような授業を、できるだけ低年次（1,2年）のときに行っていただくようお願いしている。例えば人文社会科学部では、政策提言を目標としている授業などを割り当てている。そこでも定量的評価ではなく、定

性的な評価が行われている。

〔外部評価委員〕

地域志向科目群（座学的に地域のことを知る）、地域活動科目群（ボランティア）、地域実践科目群（インターンシップ）を実施している。科目群としている為、既存の科目も新たに立ち上げた科目も含まれている。

地域志向科目群については座学的なところも多いので、テストを含め定量的な評価は可能かと思われる。地域活動科目群、地域実践科目群については地域との関わりや企業との関わりということが出てくるので、なかなか定量的な評価というのは難しいところがある。定量・定性的のところもあるが、学生自身の自己評価、教員の評価、受け入れてくれた地域の評価をいかにうまく融合して評価できるかを模索しているのが現状。

教科書については、今取り組んでいる地域志向学を1つの「学」として捉えるならば、教科書という形も取れる可能性がある一方、e-ラーニングに授業資料をアップするという形もとっている。とりわけ、社会人を対象とした科目についてはそのような形で事前に資料をアップするという形をとっている。

〔外部評価委員〕

成長スケール開発を打ち上げており、昨年度は高校、企業に話を聞いて入り口、出口を固めていく。地域志向科目を織り交ぜながら4年間でどんな人材に育てていくかというカリキュラム改革を掲げている。

評価については試行錯誤中。

デジタル教科書については、社会人特に、少しご高齢の方になるとデジタル教科書を使えないことが多い。その意味で言うと紙ベースのほうが良いかと思う。もちろん内容によるかと思うが。なかなか難しいところである。

以上